

日本発!! 一反百姓による「地球市民皆農」から「緑の生命連鎖」へ

「一粒」をヒントに読み解く! 地球で生きるための農、「生存権」としての自家採種

一反百姓「じねん道」 齋藤 博嗣 (さいとう ひろつぐ)

e-mail: jinendo2005@yahoo.co.jp

1. 一反百姓「じねん道」(A Quarter Acre Farmer - Jinendo)の自己紹介

- ・「じねん道」(Jinendo)が屋号。世界一小さな家族農業、一反百姓いったんひやくしやう(A Quarter Acre Farmer)
 - ・2015年東京から茨城の農村へ夫婦で移住、夫婦と子ども2人の家族4人、新規就農10年
⇒「じねん道」は、失われつつある地球環境を回復し、次の世代に引き継ぐ「緑の百姓哲学」を実践
 - ・「百姓」は換金農作物を作るだけの「農業」ではない。生き方のベース(基盤)に“農”を置く
⇒「農的」という視点を重視した職業・暮らし方の「農的ワークライフバランス」マネジメント (<http://blog.goo.ne.jp/hootenfarmer>)
 - ・子育てと農的暮らしの両立は、親として生きる力。子どもたちは、自然の中で自分自身で育つ
⇒自然は無教育にして最大の教育者
- ▲2015年冬号こども農業雑誌『のらのら』No.17、「麦まく・たべる・あそぶ」、農文協2015年

2 「じねん道」の福岡正信・自然農法による「一反百姓」農園の目指す姿

- ・不耕起 (No Cultivation)、無肥料 (No Fertilizer)、無除草 (No Weeding)、無農薬 (No Pesticides) を4原則「福岡正信・自然農法 (Masanobu Fukuoka, The Natural Way of Farming)」による栽培
 - ・「一反」は300坪=1,000㎡=a quarter acre を単なる面積にとらえない
 - ・田畑を、平面的ではなく立体的に、いろいろな草木を植生
⇒一反の田畑は無限の発信源。周辺の自然環境に連鎖。一粒一粒の種子の命が地球全体を緑に
- ▲『緑の哲学 農業革命論 自然農法 一反百姓のすすめ』福岡正信著、じねん道編集、春秋社2013

3. 日本における農家の今と国際化する農業問題との共通課題を探る

- ・“日本における農家の今” テーマは広範囲、農業を断片的に議論できない
- ・農家の観点から危惧する点→後継者不足、グローバル化貿易による自給率低下、小規模家族農業の生活安全保障政策、耕作放棄地の増大、気候変動による農業環境の悪影響など
- ・世界的に農業は後継者不足。農を個人的職業→社会市民の仕事
⇒農業者の生産の場→エンパワーメント (湧活力) 学習の場、文系・理系を超えた農の学校を
- ・地球市民全員参加、持続可能農業を中心に社会のグランドデザイン創出、後継者の支援態勢
- ・耕作放棄地で太陽光パネル激増、森林伐採、除草剤土壌は大丈夫? 電源のための「土」「太陽」?

- ⇒農業問題ではなく「自然に沿って生きる力を湧き出させる農」未来の世代の人材育成急務
- ・2002年、NGO ピースボートの世界一周の船旅で寄港地の一つアフリカのエリトリア
- ・2003年、有機農業研修後キューバの帰り、経由地メキシコのカンクン WTO 閣僚会議でデモ
⇒農業は農民だけの問題ではない、農の源流とは？「地球で生きるための農」をはじめよう
- ▲『第2回若者農業者サミット』2015年8月オーストラリアで開催、10月FAO・ローマで報告
「農業の未来 次世代が提言、担い手不足 共通」2015年10月7日毎日新聞

4. 「地球市民皆農」の入口としての「一粒百姓」(One Seed Farmer)

～「一粒」を視点の転換とした農業の根源的移行～

- ・「じねん道」は、新規就農以来、在来種、固定種の種子を自家採種
- ・在来大豆や古代米を栽培、手作りで農産加工品を販売
- ・2011年3月11日原発事故以降、生産者と消費者のために農業はあるのか？
⇒人間がつくりだした原発や農業の問題、世界中の皆が農にたずさわることによって永続的に解決
- ・都市⇄農村循環、お金による消費（オーダーメイド）→手足による生産（ハンドメイド）
⇒資本主義生産様式の工業型→市民公社型のモデル→小さな農民の自立的分散型な集まり
- ▲ 上智大学地域貢献講座 2004年『コミュニティ・ビジネス』自給とはコミュニティ・ビジネス
- ・「生きる自給率の向上」自給（セルフメイド）マネジメントにパラダイムシフト、農民増やす
- ・10年自家採種した種を販売 (<http://jinendo.exblog.jp/>) 「みんな一粒百姓にな～れ！」運動展開
- ・日本全国注文、ファーマーズマーケット直売、書店、自然食品店、フォーラム、足尾銅山緑化
⇒「一粒百姓」(One Seed Farmer) を入口→「一反百姓」(A Quarter Acre Farmer) の実践者
- ・国連、2014年国際家族農業年、2015年国際土壌年、本日12月5日「世界土壌デー」と制定
- ・問題提起と関連「一粒百姓」キャンペーン、世界で種蒔きイラク、ニカラグア、ブラジル etc
- ・農民を当事者とする農業や食料の問題、都市でも農村でも世界中で「農」に対する問題意識を
⇒農への入口最もミニマムな単位を「一粒百姓」、地球市民の1人として「農」への参加を
- ▲ 『国際土壌年 2015年に寄せて』一反百姓「じねん道」「みんな一粒百姓にな～れ！」宣言文
- ・「一粒百姓」は農業の根源的移行へのヒント、農に関するビジョンを意識化
- ・農的リテラシー（読解力）や農的インスピレーション（着想力）から発想
⇒Agricultural Radical Interpreter（農の根源的解釈者）の役割、農を多元的に可視化・身体化
- ・身近な土にタネを蒔く最小限の手段、農の実体験「農業とはなにか」共通の思考基盤を提供
- ・自分の内部に種子と土壌、農の実体験と一致して変化、自分の頭で農について考える
⇒「みんな一粒百姓にな～れ！」の活動、「地球市民皆農」への出発点
- ▲ 『一粒百姓からはじめるコミュニティ・ガーデン作り』地域の庭としての農、垣根を取り払う

5. 無数の「一反百姓」が、地球を「緑の生命連鎖」でつなぐ

- ・CO21（国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議）パリで開催中
- ・2015年9月10日関東・東北豪雨、同じ茨城県、直線距離約30km常総市で鬼怒川の堤防決壊
- ・地球温暖化や気候変動で雨が変化、大量の雨が一気に降り、インフラは限界がある

- ・農業を気候変動の原因とする立場、持続可能農法は変動の速度を遅くし逆転させるとする立場
⇒地球環境が基盤の農民、気候変動問題に取り組む旗手「地球における資源・環境を守る農」
 - ・「雨は上から降るのではない。地上の緑が雨を作るのだ」（自然農法の創始者・福岡正信）
 - ・「植物灌漑法（Plants Irrigation）」自然農法による種蒔きは砂漠緑化にも活用
⇒無数の種を蒔き、地表を緑でおおい、日陰をつくり、地表温度を下げ、眠っている種の復活
 - ・地球の気候は「緑地気候」で地と空が呼応相互依存
⇒身の周りの緑が、生物多様性、新鮮な空気、地から水が湧き、地球温暖化や気候変動の防止
- ▲ 日本語「植物灌漑法（Plants Irrigation）」『無III自然農法』福岡正信著・春秋社 1985 年
- ▲ 英語「Greeting the Desserts」「Natural farm and Green belt」『The Natural Way of Farming』
1985 by Masanobu Fukuoka, translated by Frederic P.Metreaud, Japan Publication,Inc.

- ・「一反百姓」農園の畑、トウモロコシ、オクラ、タカキビ、豆類などを渾然一体栽培
 - ・メキシコとモザンビークと日本、食文化・種・空でつながっている
⇒グローバル→マージナルな（地続き）意識の関係性
 - ・生活の中にある農をいとなむ「小さな農民」のつながりこそ、農業の壁を超えるカギ
⇒自家採種は「生存権」（健康で文化的な最低限度の生活を営む権利）、生きる権利としての農
 - ・人の手だけでなく自然の偉大なる叡智の蓄積である「タネの手」を頼る
 - ・至る所に土があり、地球市民の 1 人として手をとって、「真実のタネ」は国境を超える
 - ・タネ一粒「生きる術」をすべて兼ね備え、動植物や昆虫や微生物は自立、相互依存
⇒人間も自らの体に宿るエネルギーを使い、自然と共にあった「人間と農業の源流」に立返る
 - ・「一反百姓」の実践、自学自習、自己教育、自己変革
 - ・地球の痛みは私たちの痛み、根本原因を見つめる第一歩は「農」
 - ・1 人 1 人が「地球で生きるための農」の新しい農民後継者に
⇒「一反百姓」農園は、緑のネットワークの中継地点
 - ・世界規模の多くの難問を解決する道の一つ、大きな可能性を持つ小さな種子
 - ・千里の道も「一粒」から、今日から私たちにできること・・・「種蒔き」
⇒日本発！！一反百姓による「地球市民皆農」から「緑の生命連鎖」へ
- ▲出典 <http://greenpic-jinendo.seesaa.net/> by 一反百姓「じねん道」
『Everyday Greenpic エブリデー・グリーンピック 地球市民皆農運動* 百姓は毎日が緑の祭典』

以上

2015 年 10 月 29 日（木）

斎藤博嗣